



## 2026年7月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年12月12日

上場会社名 プレミアアンチエイジング株式会社  
コード番号 4934 URL <https://www.p-antiaging.co.jp/>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松浦 清  
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員  
コーポレートコミュニケーション本部長 (氏名) 上原 祐香 TEL 03-3502-2020  
配当支払開始予定日 —  
決算補足説明資料作成の有無：有  
決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

上場取引所 東

（百万円未満切捨て）

### 1. 2026年7月期第1四半期の連結業績（2025年8月1日～2025年10月31日）

#### （1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2026年7月期第1四半期	3,643	△13.9	575	△7.5	609	△2.6	408	△1.4
2025年7月期第1四半期	4,230	△19.6	622	—	625	—	414	—

（注）包括利益 2026年7月期第1四半期 397百万円（△3.4％） 2025年7月期第1四半期 411百万円（－％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年7月期第1四半期	46.82	46.76
2025年7月期第1四半期	47.49	47.49

#### （2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
2026年7月期第1四半期	10,376	7,011	67.4
2025年7月期	10,140	6,610	65.1

（参考）自己資本 2026年7月期第1四半期 6,995百万円 2025年7月期 6,598百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年7月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2026年7月期	—				
2026年7月期（予想）		0.00	—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年7月期の連結業績予想（2025年8月1日～2026年7月31日）

（％表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	8,000	△6.2	150	△84.7	150	△84.5	100	△82.8	11.47
通期	16,500	2.1	300	△51.4	300	△50.0	300	△36.4	34.40

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無  
新規 ー社 （社名）ー、除外 ー社 （社名）ー

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年7月期1Q	8,720,534株	2025年7月期	8,720,534株
② 期末自己株式数	2026年7月期1Q	155株	2025年7月期	155株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年7月期1Q	8,720,379株	2025年7月期1Q	8,720,379株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当四半期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当四半期の財政状態の概況 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記) .....	7
(セグメント情報等の注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	8
(重要な後発事象の注記) .....	9

## 1. 経営成績等の概況

### （1）当四半期の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、米国の通商政策による影響が自動車産業を中心に見られるものの、緩やかな回復が続きました。雇用・所得環境の改善を支えに個人消費も緩やかに回復しています。国内化粧品市場は、コロナ後の回復が一段落しているものの、個人消費の回復や円安によるインバウンド需要の増加により底堅い推移となっています。

こうした状況の下、当社グループは、アンチエイジング事業においてはブランドマネジメントと各チャネルとの協働を更に強化し売上の底打ちを目指すとともに、リカバリー事業においては、パイオニアとして成長市場における更なる事業拡大を目指しております。

当第1四半期連結累計期間における売上高は、子会社の株式会社ベネクスを通じて行っているリカバリー事業の売上が順調に伸長したものの、当社で行っているアンチエイジング事業が減収となり、全体では3,643百万円（前年同期比13.9%減）となりました。一方、営業利益は、アンチエイジング事業における新規獲得に係る広告宣伝費を中心とした販売費が計画を下回ったこと等から575百万円（前年同期比7.5%減）となり、経常利益は609百万円（前年同期比2.6%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は408百万円（前年同期比1.4%減）となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

アンチエイジング事業

（単位：百万円）

	前第1四半期連結累計期間 （自 2024年8月1日 至 2024年10月31日）	当第1四半期連結累計期間 （自 2025年8月1日 至 2025年10月31日）	前年同期比 （%）
売上高	3,699	2,952	△20.2
営業利益	589	539	△8.6

#### 売上高

アンチエイジング事業の売上高は、2,952百万円（前年同期比20.2%減）となりました。

チャネル別の売上高は、デュオのリニューアルに伴う返品影響が減少し、POSの改善等が顕著な卸売販売が前年同期実績を上回ったものの、新規獲得の広告効率の改善が見られない通信販売の減少が響き、前年同期実績を下回りました。

通信販売は、未トライアル層へのリーチを強化し新規獲得を図るとともに、顧客単価向上・クロスセル促進に向けた新商品・限定品の投入、CRM施策の更なる拡充に努めています。当第1四半期連結累計期間においては、定期顧客の継続率向上を促進するためのプロモーションや「デュオ」のミニサイズを活用した通販新規獲得トライアルキャンペーン等は一定の成果を挙げLTVは上昇しているものの、新規獲得の減少を補うには至らず売上の減少が続いています。

卸売販売は、卸売販売専用ブランドの育成、卸売先企業との連携進化による成長力の獲得、ECモール事業の強化に努めています。当第1四半期連結累計期間においては、「デュオ」の「ザ クレンジングバーム」シリーズ5種の全面リニューアル後、「ザ クレンジングバーム ブラックリペア」の@cosmeベストコスメアワード2025上半期新作ベストコスメ獲得を契機とした卸売先企業との連携によるプロモーションを継続的に展開した結果、店頭での販売が好調に推移し売上は前年同期実績を上回りました。

ブランド別の状況は次の通りです。

「デュオ」ブランドは、「ザ クレンジングバーム ブラックリペア」の@cosmeベストコスメアワード2025上半期新作ベストコスメ獲得に合わせたプロモーションを引き続き展開し、販売促進につなげました。卸売販売事業におけるPOSは、リニューアル後、対前年を上回る水準まで回復し、ECモールにおける販売も前年を上回っております。また、通販事業における新規獲得では、ミニサイズのトライアル獲得を実施し、デュオが未体験のお客様にデュオの良さを知って頂く機会を提供しました。10月からは株式会社パン・パシフィック・インターナショナル様との協働による限定品「デュオ ザ クレンジングバーム スクラブ ブラック」を全国のドン・キホーテ、アピタ、ピアゴ（一部店舗を除く）で順次発売を開始し、11月19日には「デュオ」からの新ラインとして落とす美容液「デュオ クレンジングセラム ピール&ブースト」を発表し、@cosme TOKYO、@cosme SHOPPINGでの先行販売を開始しました。これらの新商品も加え、引き続き、ブランド価値を訴求し浸透を図るコミュニケーションやプロモーションを実行し、通信販売事業、卸売販売事業双方における「デュオ」の売上反転に注力してまいります。

「カナデル」ブランドは、オールインワン化粧品市場の競争激化が継続していますが、お客様とより深く、より長くおつきあい頂けるブランドへの進化を目指しています。

「クレイエンス」ブランドについても、引き続き総合ヘアケアブランドとしての育成を図っています。

この他、卸売販売専用ブランドとして新たに投入した、ファスト美容医療発想を叶えるスキんケアブランド「ララスキン」の第一弾商品として「ララスキン 白玉ピーリングジェル洗顔」と「ララスキン 水光シャワーミスト」を、9月より全国約5,000店舗で販売を開始しました。また幹細胞培養エキスを着目したエイジングケアブランド「レインカ」につきましては、11月に札幌三越において、リカバリーソリューションブランド「ベネクス」とのジョイントによるポップアップストアを開催しました。インナーケア事業のサプリメント「シントー リポソーム ビタミンC」や高濃度ビタミンCスキんケア「C+mania（シーマニア）」等のテストマーケティングも継続しております。

営業利益

営業利益は、新規獲得に係る広告宣伝費を中心とした販売費が計画を下回ったこと等から539百万円（前年同期比8.6%減）となりました。

リカバリー事業

（単位：百万円）

	前第1四半期連結累計期間 （自 2024年8月1日 至 2024年10月31日）	当第1四半期連結累計期間 （自 2025年8月1日 至 2025年10月31日）	前年同期比 （%）
売上高	531	691	29.9
営業利益	32	36	11.3

売上高

売上高は、旗艦製品のスタンダードドライブラスやコンフォートポンチなどが引き続き堅調に推移したことから、691百万円（前年同期比29.9%増）となりました。

営業利益

営業利益は、ブランド認知向上やリカバリーの啓発活動に係る広告宣伝投資や組織強化のための人員拡充を実施するなど、事業成長への積極投資を継続したことから、36百万円（前年同期比11.3%増）となりました。

（2）当四半期の財政状態の概況

（資産）

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比較して235百万円増加し、10,376百万円となりました。主な増減要因は、次のとおりであります。

流動資産は、前連結会計年度末と比較して240百万円増加し、8,314百万円となりました。これは主に、現金及び預金の増加40百万円、製品の増加76百万円、原材料及び貯蔵品の増加78百万円によるものです。

固定資産は、前連結会計年度末と比較して5百万円減少し、2,062百万円となりました。これは主に、有形固定資産の減少5百万円によるものです。

（負債）

当第1四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末と比較して165百万円減少し、3,364百万円となりました。主な増減要因は、次のとおりであります。

流動負債は、前連結会計年度末と比較して104百万円減少し、2,892百万円となりました。これは主に、短期借入金の増加195百万円、未払金の減少339百万円によるものです。

固定負債は、前連結会計年度末と比較して61百万円減少し、472百万円となりました。これは主に、長期借入金の減少44百万円によるものです。

（純資産）

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末と比較して401百万円増加し、7,011百万円となりました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益408百万円によるものです。

その結果、自己資本比率は67.4%となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年7月期の連結業績予想につきましては、2025年9月11日に公表した予想から変更はありません。第1四半期の営業利益は計画を上回りましたが、第2四半期以降、広告宣伝費を中心とした販売費の増加を見込んでいます。なお、業績予想を見直す必要が生じた場合には、速やかに開示する予定です。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

### (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年7月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年10月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,655	4,696
売掛金	1,421	1,356
製品	1,002	1,079
原材料及び貯蔵品	457	536
その他	535	644
流動資産合計	8,073	8,314
固定資産		
有形固定資産	553	547
無形固定資産		
のれん	310	299
その他	603	611
無形固定資産合計	914	911
投資その他の資産	599	602
固定資産合計	2,067	2,062
資産合計	10,140	10,376
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	203	289
短期借入金	405	600
1年内返済予定の長期借入金	208	200
1年内償還予定の社債	26	28
未払金	794	455
未払法人税等	126	220
賞与引当金	78	36
契約損失引当金	25	—
その他	1,128	1,061
流動負債合計	2,997	2,892
固定負債		
社債	17	8
長期借入金	451	406
資産除去債務	14	14
その他	50	43
固定負債合計	533	472
負債合計	3,530	3,364
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,351	1,351
資本剰余金	1,351	1,351
利益剰余金	3,876	4,284
自己株式	△1	△1
株主資本合計	6,578	6,986
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	19	8
その他の包括利益累計額合計	19	8
新株予約権	12	16
純資産合計	6,610	7,011
負債純資産合計	10,140	10,376

（2）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
（四半期連結損益計算書）

（単位：百万円）

	前第1四半期連結累計期間 （自 2024年8月1日 至 2024年10月31日）	当第1四半期連結累計期間 （自 2025年8月1日 至 2025年10月31日）
売上高	4,230	3,643
売上原価	808	775
売上総利益	3,422	2,867
販売費及び一般管理費	2,800	2,292
営業利益	622	575
営業外収益		
受取利息	0	4
為替差益	10	31
雑収入	0	2
営業外収益合計	11	37
営業外費用		
支払利息	7	3
雑損失	0	0
営業外費用合計	8	4
経常利益	625	609
税金等調整前四半期純利益	625	609
法人税等	211	200
四半期純利益	414	408
親会社株主に帰属する四半期純利益	414	408

（四半期連結包括利益計算書）

（単位：百万円）

	前第1四半期連結累計期間 （自 2024年8月1日 至 2024年10月31日）	当第1四半期連結累計期間 （自 2025年8月1日 至 2025年10月31日）
四半期純利益	414	408
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△2	△10
その他の包括利益合計	△2	△10
四半期包括利益	411	397
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	411	397



（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記）

（税金費用の計算）

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

（セグメント情報等の注記）

I 前第1四半期連結累計期間（自 2024年8月1日 至 2024年10月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益計算書計上額（注）
	アンチエイジング事業	リカバリー事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,699	531	4,230	-	4,230
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	3,699	531	4,230	-	4,230
セグメント利益	589	32	622	-	622

（注）セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

該当事項はありません。

（のれんの金額の重要な変動）

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間（自 2025年8月1日 至 2025年10月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益計算書計上額（注）
	アンチエイジング事業	リカバリー事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,952	691	3,643	—	3,643
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,952	691	3,643	—	3,643
セグメント利益	539	36	575	—	575

（注）セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

該当事項はありません。

（のれんの金額の重要な変動）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記）

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれん償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 （自 2024年8月1日 至 2024年10月31日）	当第1四半期連結累計期間 （自 2025年8月1日 至 2025年10月31日）
減価償却費	60百万円	61百万円
のれん償却費	10	10

（重要な後発事象の注記）

（資本金の額の減少）

2025年9月11日開催の取締役会において、2025年10月29日開催予定の第16回定時株主総会に、資本金の額の減少について付議することを決議し、同株主総会において承認可決され、2025年12月1日付で効力が発生しております。

1. 資本金の額の減少の目的

当社は、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を実現するための経営戦略の一環として、適切な税制の適用を通じて当社グループの成長戦略をより強力に推進し、また今後の資本政策の柔軟性及び機動性を確保することを目的として、会社法第447条第1項の規定に基づき、資本金の額を減少し、その他資本剰余金に振り替えるものであります。

2. 資本金の額の減少の要領

（1）減少する資本金の額

2025年9月11日時点の資本金の額1,351百万円のうち、1,301百万円を減少させ、50百万円といたしました。

（2）資本金の額の減少の方法

発行済株式総数の変更は行わず、減少する資本金の額1,301百万円の全額をその他資本剰余金に振り替えることといたしました。

3. 資本金の額の減少の日程

- |                |             |
|----------------|-------------|
| （1）取締役会決議日     | 2025年9月11日  |
| （2）定時株主総会決議日   | 2025年10月29日 |
| （3）債権者異議申述最終期日 | 2025年11月29日 |
| （4）効力発生日       | 2025年12月1日  |